

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第107期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社富山第一銀行
【英訳名】	THE FIRST BANK OF TOYAMA,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 横田 格
【本店の所在の場所】	富山市西町5番1号
【電話番号】	富山（076）424局1211番（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理部長 柴田 栄文
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区内神田二丁目15番11号 株式会社富山第一銀行東京支店
【電話番号】	東京（03）3256局6311番（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役東京支店長 沢田 貢
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社富山第一銀行東京支店 （東京都千代田区内神田二丁目15番11号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

		平成28年度 第3四半期連結 累計期間	平成29年度 第3四半期連結 累計期間	平成28年度
		(自 平成28年 4月1日 至 平成28年 12月31日)	(自 平成29年 4月1日 至 平成29年 12月31日)	(自 平成28年 4月1日 至 平成29年 3月31日)
経常収益	百万円	24,743	26,598	33,817
経常利益	百万円	7,233	6,991	7,372
親会社株主に帰属する四 半期純利益	百万円	5,371	4,768	-
親会社株主に帰属する当 期純利益	百万円	-	-	5,563
四半期包括利益	百万円	1,991	10,416	-
包括利益	百万円	-	-	5,210
純資産額	百万円	101,016	107,276	97,797
総資産額	百万円	1,351,619	1,356,523	1,349,230
1株当たり四半期純利益 金額	円	80.32	71.30	-
1株当たり当期純利益金 額	円	-	-	83.19
潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額	円	-	-	-
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額	円	-	-	-
自己資本比率	%	7.15	7.55	6.92

		平成28年度 第3四半期連結 会計期間	平成29年度 第3四半期連結 会計期間
		(自 平成28年 10月1日 至 平成28年 12月31日)	(自 平成29年 10月1日 至 平成29年 12月31日)
1株当たり四半期純利益 金額	円	18.29	22.81

(注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については潜在株式がないので記載しておりません。

3. 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資
産の部の合計で除して算出しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当行グループ（当行及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

連結経営成績につきましては、経常収益は株式等売却益の増加により、前年同期比18億55百万円増加し265億98百万円となりました。

一方、経常費用は株式等売却損の増加により、前年同期比20億97百万円増加し196億7百万円となりました。

以上の結果、経常利益は前年同期比2億42百万円減少し69億91百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比6億3百万円減少し47億68百万円となりました。

連結財政状態につきましては、譲渡性預金を含めた預金等は前連結会計年度末に比べ226億円増加し、当第3四半期連結会計期間末残高は1兆1,937億円となりました。貸出金は前連結会計年度末に比べ67億円増加し、当第3四半期連結会計期間末残高は8,270億円となりました。有価証券は前連結会計年度末に比べ83億円減少し、当第3四半期連結会計期間末残高は4,399億円となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

〔銀行業〕

経常収益は234億28百万円（前年同期比17億27百万円増加）、セグメント利益は66億45百万円（同2億68百万円減少）となりました。

〔リース業〕

経常収益は30億70百万円（前年同期比39百万円増加）、セグメント利益は1億30百万円（同38百万円減少）となりました。

〔その他〕

経常収益は4億95百万円（前年同期比51百万円増加）、セグメント利益は2億11百万円（同54百万円増加）となりました。

国内業務部門・国際業務部門別収支

資金運用収支は128億57百万円、役務取引等収支は5億96百万円、その他業務収支は23億49百万円となり、その収支合計は158億3百万円であります。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	13,423	706	15	14,145
	当第3四半期連結累計期間	12,009	841	7	12,857
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	(54) 14,185	831	92	14,870
	当第3四半期連結累計期間	(55) 12,665	962	92	13,479
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	762	(54) 124	107	725
	当第3四半期連結累計期間	655	(55) 120	99	621
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	831	6	-	837
	当第3四半期連結累計期間	590	6	-	596
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	1,752	10	26	1,735
	当第3四半期連結累計期間	1,516	9	28	1,498
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	921	3	26	898
	当第3四半期連結累計期間	926	3	28	901
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	3,248	1,817	265	1,165
	当第3四半期連結累計期間	2,460	145	257	2,349
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	6,107	50	498	5,659
	当第3四半期連結累計期間	6,455	222	457	6,220
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	2,858	1,867	232	4,494
	当第3四半期連結累計期間	3,995	76	200	3,870

(注) 1. 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門とは、当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定等は国際業務部門に含めております。

2. 相殺消去額とは、連結会社間の内部取引等に係る消去額合計であります。

3. 資金運用収益及び資金調達費用の上段の()内計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息(内書き)であり、合計は控除して記載しております。

国内業務部門・国際業務部門別役務取引の状況

役務取引等収益は14億98百万円となり、役務取引等費用は9億1百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	1,752	10	26	1,735
	当第3四半期連結累計期間	1,516	9	28	1,498
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	472	-	4	468
	当第3四半期連結累計期間	463	-	4	459
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	449	10	-	459
	当第3四半期連結累計期間	443	9	-	453
うち投資信託業務	前第3四半期連結累計期間	263	-	-	263
	当第3四半期連結累計期間	303	-	-	303
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	6	-	-	6
	当第3四半期連結累計期間	35	-	-	35
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	505	-	-	505
	当第3四半期連結累計期間	213	-	-	213
うち保護預り・貸金 庫業務	前第3四半期連結累計期間	18	-	-	18
	当第3四半期連結累計期間	17	-	-	17
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	37	-	22	15
	当第3四半期連結累計期間	39	-	23	15
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	921	3	26	898
	当第3四半期連結累計期間	926	3	28	901
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	78	3	-	82
	当第3四半期連結累計期間	79	3	-	82

(注) 1. 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門とは、当行及び連結子会社の外貨建取引であります。

2. 相殺消去額とは、連結会社間の内部取引等に係る消去額合計であります。

国内業務部門・国際業務部門別預金残高の状況
預金の種類別残高（未残）

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	1,134,411	7,958	486	1,141,883
	当第3四半期連結会計期間	1,151,252	7,119	593	1,157,778
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	441,516	-	486	441,030
	当第3四半期連結会計期間	478,227	-	593	477,633
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	691,121	-	-	691,121
	当第3四半期連結会計期間	670,449	-	-	670,449
うちその他	前第3四半期連結会計期間	1,773	7,958	-	9,731
	当第3四半期連結会計期間	2,575	7,119	-	9,694
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	36,722	-	-	36,722
	当第3四半期連結会計期間	36,000	-	-	36,000
総合計	前第3四半期連結会計期間	1,171,134	7,958	486	1,178,605
	当第3四半期連結会計期間	1,187,252	7,119	593	1,193,778

(注) 1. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

2. 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

3. 相殺消去額とは、連結会社間の内部取引等に係る消去額合計であります。

国内・海外別貸出金残高の状況
業種別貸出状況（未残・構成比）

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額（百万円）	構成比（％）	金額（百万円）	構成比（％）
国内（除く特別国際金融取引勘定分）	818,267	100.00	827,064	100.00
製造業	121,692	14.87	126,878	15.34
農業、林業	3,665	0.45	3,822	0.46
漁業	23	0.00	1	0.00
鉱業、採石業、砂利採取業	1,124	0.14	1,215	0.15
建設業	37,771	4.61	39,412	4.76
電気・ガス・熱供給・水道業	21,786	2.66	22,538	2.72
情報通信業	12,497	1.53	9,308	1.13
運輸業、郵便業	27,104	3.31	30,716	3.71
卸売業	40,267	4.92	41,840	5.06
小売業	31,403	3.84	34,164	4.13
金融業、保険業	52,829	6.46	54,547	6.59
不動産業	48,088	5.88	50,449	6.10
物品賃貸業	14,521	1.77	14,694	1.78
学術研究、専門・技術サービス業	4,831	0.59	6,340	0.77
宿泊業	4,005	0.49	3,108	0.38
飲食業	3,172	0.39	3,959	0.48
生活関連サービス業、娯楽業	4,617	0.56	5,632	0.68
教育、学習支援業	1,153	0.14	1,396	0.17
医療・福祉	16,263	1.99	19,825	2.40
その他のサービス	12,651	1.55	14,774	1.79
地方公共団体	155,713	19.03	138,106	16.70
その他	203,084	24.82	204,329	24.70
特別国際金融取引勘定分				
合計	818,267		827,064	

（注） 「国内」とは、当行及び連結子会社であります。「海外」は該当ありません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当ありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	67,309,700	同左	東京証券取引所市場第一部	単元株式数 100株
計	67,309,700	同左	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	67,309	-	10,182	-	6,074

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」について、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 439,800		
完全議決権株式（その他）	普通株式 66,760,700	667,607	
単元未満株式	普通株式 109,200		
発行済株式総数	67,309,700		
総株主の議決権		667,607	

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社富山第一銀行	富山市西町5番1号	439,800		439,800	0.65
計		439,800		439,800	0.65

2【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

なお、平成29年10月10日付で、以下のとおり役職の異動を行っております。

役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	人事企画部長兼 コンプライアンス/フィデューシャリー・デューティー部長	取締役	人事企画部長	釣 安孝	平成29年10月10日 平成29年11月6日に兼職を解く
取締役	経営管理部長兼総合企画部長	取締役	総合企画部長	柴田 栄文	平成29年10月10日
取締役	コーポレート部長兼東京支店長兼東京事務所長	取締役	東京支店長兼東京事務所長	沢田 貢	平成29年10月10日
取締役	リテール部長	取締役	営業企画部長兼個人営業推進室長兼地域貢献室長	八幡 正之	平成29年10月10日
取締役	事務統括システム部長	取締役	リスク統括部長	田中 豊	平成29年10月10日
取締役	法人事業部長	取締役	融資統括部長	桑原 幹也	平成29年10月10日
取締役	支店部長兼ダイレクトバンキング部長	取締役	営業企画部副部長	朝瀬 久	平成29年10月10日

(参考)

当行は、平成16年7月1日より執行役員制度を導入しております。執行役員の役職の異動は次のとおりであります。

新職名	旧職名	氏名	異動年月日
コンプライアンス/フィデューシャリー・デューティー部長	ビジネスプラザ支店長	島田 秀二	平成29年11月6日

第4【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
現金預け金	53,225	60,864
商品有価証券	196	157
金銭の信託	700	700
有価証券	2,448,324	2,439,957
貸出金	1,820,355	1,827,064
外国為替	1,656	1,435
リース債権及びリース投資資産	7,703	8,042
その他資産	5,334	7,474
有形固定資産	12,666	12,132
無形固定資産	1,150	1,039
支払承諾見返	2,406	2,560
貸倒引当金	4,488	4,905
資産の部合計	1,349,230	1,356,523
負債の部		
預金	1,124,489	1,157,778
譲渡性預金	46,672	36,000
コールマネー及び売渡手形	45,000	15,000
借入金	22,123	22,467
外国為替	0	-
その他負債	4,796	6,836
役員賞与引当金	22	15
退職給付に係る負債	2,945	3,202
睡眠預金払戻損失引当金	121	103
偶発損失引当金	78	91
繰延税金負債	1,933	4,350
再評価に係る繰延税金負債	843	841
支払承諾	2,406	2,560
負債の部合計	1,251,432	1,249,247

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
資本金	10,182	10,182
資本剰余金	6,076	6,076
利益剰余金	67,068	70,906
自己株式	308	308
株主資本合計	83,019	86,857
その他有価証券評価差額金	8,792	14,264
土地再評価差額金	1,606	1,601
退職給付に係る調整累計額	2	234
その他の包括利益累計額合計	10,397	15,631
非支配株主持分	4,380	4,787
純資産の部合計	97,797	107,276
負債及び純資産の部合計	1,349,230	1,356,523

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
経常収益	24,743	26,598
資金運用収益	14,870	13,479
(うち貸出金利息)	7,623	7,143
(うち有価証券利息配当金)	7,223	6,309
役務取引等収益	1,735	1,498
その他業務収益	5,659	6,220
その他経常収益	1,247	1,540
経常費用	17,509	19,607
資金調達費用	725	621
(うち預金利息)	698	606
役務取引等費用	898	901
その他業務費用	4,494	3,870
営業経費	10,129	9,928
その他経常費用	2,126	2,428
経常利益	7,233	6,991
特別利益	142	3
固定資産処分益	142	3
特別損失	79	2
固定資産処分損	15	2
減損損失	63	-
税金等調整前四半期純利益	7,296	6,992
法人税、住民税及び事業税	1,754	2,047
法人税等調整額	22	17
法人税等合計	1,776	2,064
四半期純利益	5,520	4,927
非支配株主に帰属する四半期純利益	148	159
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,371	4,768

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	5,520	4,927
その他の包括利益	7,511	5,488
その他有価証券評価差額金	7,541	5,720
退職給付に係る調整額	29	231
四半期包括利益	1,991	10,416
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,082	10,007
非支配株主に係る四半期包括利益	90	408

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
破綻先債権額	884百万円	1,012百万円
延滞債権額	6,545百万円	6,738百万円
3ヵ月以上延滞債権額	1百万円	22百万円
貸出条件緩和債権額	2,432百万円	2,348百万円
合計額	9,863百万円	10,121百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
	2,468百万円	2,209百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
貸倒引当金戻入益	507百万円	-百万円
償却債権取立益	11百万円	29百万円
株式等売却益	1,923百万円	5,348百万円
債権売却益	1百万円	7百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
貸出金償却	4百万円	4百万円
貸倒引当金繰入額	-百万円	430百万円
株式等償却	-百万円	1百万円
株式等売却損	1,193百万円	3,705百万円
債権売却損	-百万円	49百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	1,052百万円	1,017百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	601	9.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金
平成28年11月4日 取締役会	普通株式	468	7.00	平成28年9月30日	平成28年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	468	7.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金
平成29年11月6日 取締役会	普通株式	468	7.00	平成29年9月30日	平成29年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	21,578	2,758	24,337	406	24,743	-	24,743
セグメント間の内部経常収益	121	272	394	37	432	432	-
計	21,700	3,031	24,731	443	25,175	432	24,743
セグメント利益	6,913	169	7,082	157	7,240	6	7,233

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務及び金銭の貸付等の業務を含んでおります。

3. セグメント利益の調整額 6百万円は、セグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	23,308	2,834	26,142	455	26,598	-	26,598
セグメント間の内部経常収益	119	236	356	39	395	395	-
計	23,428	3,070	26,499	495	26,994	395	26,598
セグメント利益	6,645	130	6,775	211	6,987	3	6,991

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務及び金銭の貸付等の業務を含んでおります。

3. セグメント利益の調整額 3百万円は、セグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(有価証券関係)

1. 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	5,082	5,327	245
地方債	799	839	39
社債	10,923	11,150	226
その他	1,956	1,950	6
合計	18,762	19,267	505

当第3四半期連結会計期間(平成29年12月31日)

	四半期連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	6,102	6,439	336
地方債	799	833	33
社債	9,298	9,460	161
その他	1,238	1,250	11
合計	17,440	17,983	543

2. その他有価証券

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	取得原価（百万円）	連結貸借対照表計上額 （百万円）	差額（百万円）
株式	68,153	79,676	11,523
債券	169,692	175,300	5,608
国債	105,002	109,012	4,009
地方債	18,521	19,012	490
社債	46,167	47,275	1,107
その他	175,599	172,461	3,138
合計	413,445	427,439	13,993

当第3四半期連結会計期間（平成29年12月31日）

	取得原価（百万円）	四半期連結貸借対照表計上額 （百万円）	差額（百万円）
株式	65,593	83,395	17,802
債券	123,759	127,922	4,163
国債	53,609	56,424	2,815
地方債	22,538	22,943	404
社債	47,611	48,554	943
その他	208,828	209,076	247
合計	398,180	420,394	22,213

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	80.32	71.30
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	5,371	4,768
普通株主に帰属しない金額	百万円	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	5,371	4,768
普通株式の期中平均株式数	千株	66,870	66,869

なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

中間配当

平成29年11月6日開催の取締役会において、第107期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当額 468百万円

1株当たりの中間配当金 7円00銭

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月8日

株式会社富山第一銀行

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 細野 和也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安田 康宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社富山第一銀行の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社富山第一銀行及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。